

本との出会いを楽しむ

第 29 回

看護師の本棚

「職業人として、偉大な先輩から得るもの」

笹竹ひかる

看護師・急性重症患者看護専門看護師。2014年弘前大学大学院保健学研究科博士前期課程修了。看護師、大学で教員経験を経て、専門看護師養成コースの大学院へ進学・修了。現在は看護師としてむつ総合病院に勤務。



後輩の看護師と会話をしている中で、私は「将来は認定看護師か専門看護師を目指しています。」と就職時の面接で答えたことを思い出しました。そして専門看護師を目指し、大学院へ進学しました。専門看護師には求められている6つの役割があります。その中の一つに〈高度な実践〉を行うことが求められています。大学院在学中から、〈高度な実践〉とは何を指しているのかが分からず、本を読んでみたり友人と議論したりということをしていました。そうこうしているうちに大学院は修了し、臨床の中で模索することになりました。

むつ総合病院で勤務し、弘前大学大学院の同期と交流する中で書店に行くことが習慣となっていました。そのときも〈高度な実践〉とは何かを模索中のため、いつもの書店に行き、それらしきことが書いている本を探すのです。すると看護に携わる者で知らない人はいないであろう理論家の名前が目に入り、手に取ってみました。その本は、『ベナー看護実践における専門性：達人になるための思考と行動』です。新人から達人までの知識や実践の思考や行動を、看護師へのインタビュー内容をもとに書かれています。また、新人から一人前、一人前から中堅、中堅から達人へと移行するために必要なこと、職場環境についても書かれています。

〈高度な実践〉とは何かを考えるにあたり、この本を読んだことで、自分の思考の狭さに気づきま

した。自分が目指す専門看護師分野で〈高度な実践〉とは何かを考えていましたが、分野に捉われず、看護師として〈高度な実践〉を考えるきっかけを得ました。

例えば、看護では患者さんなど対象者の言葉を聞く(聴く)能力を身につけることが大切だといいますが、この本に出てくる達人は〈聞く(聴く)〉能力に長けているというのです。弘前大学大学院在学中の研究活動の中で、本質に迫るために聞く(聴く)ことを学びました。きっと本に書かれている達人も本質に迫るために聞く(聴く)のです。スペシャリストとして特定の分野に長けた〈聞く(聴く)〉という行動も〈高度な実践〉といえるのではないかと考えさせられることになりました。

この本は、看護学生はもちろん、ある程度の臨床経験を経てから読むことで、共感すること、腑に落ちることがあります。読む者の経験や置かれている状況によって、さまざまなことが見えてくると思います。あらゆる世代の方に手に取って見てほしい1冊です。

(ささたけ ひかる)

分館所蔵

「ベナー看護実践における専門性：達人になるための思考と行動」
Benner P. E. ほか 著

早野真佐子 訳

492.9
B35k

医分館5層(図書)